

令和 6 年 5 月 13 日現在

機関番号：27104

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K13617

研究課題名（和文）イタリア1971年118号法制定のために教育運動が果たした役割

研究課題名（英文）The role of the education movement in the enactment of Law 118 of 1971 in Italy.

研究代表者

二見 妙子（Futami, Taeko）

福岡県立大学・人間社会学部・助教

研究者番号：90757395

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、現在国際的に注目されるイタリア国がフルインクルーシブ教育を制度的に展開する1971年前後の教育運動について把握することを目的としてはじめたものである。この目的に到達するため、本研究では、まず、イタリアの教育制度史のみならず、アソシエーションの成り立ちや社会的協同組合の特徴を把握した。また、現地研究者より、1971年前後のイタリア社会の転換期の動向や教育改革を求めた運動の概要を知ることができた。また教育学そのものの転換が主張されていたことも知り得た。これらは、障害当事者による社会保障運動や親の会を中心とするインクルーシブ教育推進を求める運動と共に理解する必要があることも分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イタリアのフルインクルーシブ教育が制度化されるまでには、1）当事者による社会保障を求める運動、2）精神医療制度改革を求める運動、3）重度の障害児の親たちによるインクルーシブ教育を求める運動の展開が存在した。4）1教師の運動としては、1950年代からイタリア国内で展開された協働教育運動実践が重要であるが、この運動とインクルーシブ教育の推進の関係を直接的に示す資料を得ることは今回の調査ではできなかった。ファルクッチ報告書（1975年）ができるまでにはすでに多くの障害児が現場に包括されており、その実践を基に議論された視点がファルクッチ文書に示されたことが分かった。

研究成果の概要（英文）：This study was initiated with the aim of understanding the educational movement around 1971, when the Italian state, which is currently the focus of international attention, was systematically developing full-inclusive education.

In order to reach this objective, the study first of all identified the origins of associations and the characteristics of social cooperatives, as well as the history of the Italian education system. In addition, from local researchers we were able to obtain an overview of the trends in the period of transition in Italian society around 1971 and the movements that called for educational reform. We also learnt that it is necessary to understand these issues together with the social security movement by persons with disabilities and the movement for the promotion of inclusive education led by parents' associations.

研究分野：インクルーシブ教育運動の歴史

キーワード：教育運動史 インクルーシブ教育・保育

1. 研究開始当初の背景

現在、フルインクルーシブの国として国際的に評価されているイタリア国であるが、そのきっかけは1971年の法律118号である。私は、この法律が施行される直前直後、イタリアの障害児教育の実態はどのようなものだったのか、そして、当時の教師たちは、どのようなスタンスで新しい教育システムを取り入れ、受け入れようとしたのか、ということを明らかにされた資料が日本国内にはないので、これを把握する必要があると考え本研究向かった。

2. 研究の目的

イタリアにインクルーシブな教育制度をもたらした1970年代前後の現場教師たちの議論や動向を探る。

3. 研究の方法

- ・文献講読
- ・現地研究者を講師にお迎えしてオンライン研究会の実施
- ・現地訪問(小学校・中学校・幼稚園・卒業後の就労場所・卒業後の居場所・大学・運動団体)

4. 研究成果

2021年

- 4月5日: イタリアの教育の歴史及び共同教育運動史について文献講読を行った
- 6月: イタリアボローニャのインクルーシブ教育センターAEMOCONの副所長ALICEIMOL氏を講師にオンライン学習会実施。
- 9月: イタリアの障害当事者運動ANMICの1960年代後半から1970年代の歴史的な取り組みについて資料収集と翻訳に取り組んだ。
- 10月11日: イタリアのインクルーシブ教育における「加配教員」の位置づけの変遷を把握した。

2022年

- 3月 第1次報告書作成。
- 7月 国立キャリア大学MURA教授をお招きし、オンライン研修実施。
- 10月 カリアリ大学訪問、教育学部4年生に日本のインクルーシブ教育の現状と課題を報告し、学生のみなさんと分離が進む日本の特別支援教育の背景を議論。さらにカリアリ地域の保育所、小中学校を訪問し実践を見学した。
AEMOCON訪問。

2023年

1月~3月アンネットムーラ氏(国立キャリア大学)とその研究グループの方々と共同論文を作成、両国の学会誌に発表。1980年代初頭の実践家にお話を聴いた。基ボローニャ大教授クオモ氏と共に開発されたこれらの実践は、障害児に特化するのではなく教科の専門性追求によってすべての子どもたちの参加促進を企図していた。
インクルーシブな社会福祉的实践として、ミラノにおいて、学校卒業後の若者が社会的協同組合のショップで自分らしく働き給与を得ている現場を見学した。一緒に働く健全者は障害者である若者たちが決める。また、一人で生活したいと思うようになった時のための体験宿泊所も用意され、アソシエーション活動の自立性の高さに多くを学んだ。

2023年

- 9月: 原点の教育運動に迫るため、ローマおよびボルツアーノの当事者運動団体ANMIC及び、ダウン症協会を訪問し、その概要をお聞きした。当事者運動が社会保障を促進し、親の会がインクルーシブ教育推進を求めてきた歴史を把握することはできた。しかし、当時の教師たちの動向を示す直接的な資料を手に入れるには至らなかった。今後の課題として、さらに研究を進めたい。

11月~翌3月ボローニャAEMOCONの実践について学会論文作成。24年夏出版予定。

全体として、

1971 年以前にインクルーシブ教育を求めた教師の運動に関する資料の調査は、まだ、ようやく手がかりを見つけたというところである。今後も継続したい。

1971 年の教育制度改革を導いたものを考察するためには、イタリア社会を多様な側面から理解する必要があることが分かった。医療制度改革を求めた運動、障害者の社会保障を求めた運動、その人権意識の高まりを求めた運動、親たちによるインクルーシブ教育を求めた運動、そして、全ての子どもたちに教育権を保障しようとした教育協働運動等の存在を把握することができた。

しかし、私はもう少し、一つ一つの運動の中で障害児の教育がどのように語られていたのかを把握する必要がある。近年翻訳機も簡単に使用しやすくなったので、イタリア語の文献調査もやりやすくなった。今回の調査に関する文献を読み込み、さらに同様のテーマで研究を進めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Antonello Mura、Ilaria Tatulli、Antioco Luigi Zurru、Taeko Futami、Miho Kawano	4. 巻 14
2. 論文標題 Development of Inclusive Education in Toyonaka City, Osaka Prefecture; Focusing on the Education Movement of the 1970s	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 L' integrazione scolastica e sociale	6. 最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawano Miho、Taeko Futami、Antonello Mura、Ilaria Tatulli、Antioco Luigi Zurru、	4. 巻 1
2. 論文標題 Family associations in Italy: between roots and perspectives for inclusion	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 公教育計画研究14	6. 最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 二見 妙子
2. 発表標題 「Alice Imola (2008) が示すインクルーシブ教育推進のための加配教員の専門性」
3. 学会等名 第1回子どもアドボカシー学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二見 妙子
2. 発表標題 インクルーシブ教育と発達障害
3. 学会等名 熊本県小川町特別支援教育連絡協議会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 二見 妙子
2. 発表標題 日本におけるインクルーシブ教育の現状と課題
3. 学会等名 イタリアカリアリ大学（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 イタリアのインクルーシブ教育の歴史	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 日本におけるインクルーシブ教育の現状と課題	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 イタリアのインクルーシブ教育の歴史	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 イタリアのインクルーシブ教育の実践	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関